

会報

- No.56 -

令和5年9月6日発行
群馬県中学校長会
会長 川上辰幸
前橋市文京町二丁目19-18
電話 027 (223) 7158



新しい時代に向かう学校づくり

群馬県中学校長会長 川上辰幸

今、学校現場にあっては、Withコロナによる生活スタイルを模索する中、いじめや不登校といった問題に加えて、発達障害への合理的配慮、LGBTQや外国にルーツを持つ生徒に対する理解の促進等々、社会の変化に伴う新たな課題への対応も求められています。また、教職員の働き方改革についても、県から新たな提言が示されるなど、今日的な課題を踏まえた学校づくりの推進が急務となっている状況です。

今年度は、こうした教育課題の解決に向けて各校の校長先生方がリーダーシップを発揮できるよう、「本会の組織と機能の充実を図り、主体性を発揮していくこと」「関係諸機関等との連携を深め、学校課題の改善を図ること」「校長の学校経営力を高め、信頼される学校づくりに努めること」の三つを本会の活動方針としてお示しさせていただきました。

社会は刻々と変化し、時代は確実に動いています。私たち校長は、時代の流れから目を背けず、新しい時代に向かう新しい学校づくりに向けて、様々な課題に対して、状況を見極め、的

確に判断し、そして勇気をもって決断していかなければならないと思っています。

わずかな従業員の工場でロケット造りを進め、宇宙開発への夢を叶えた植松電機代表取締役の植松努氏は、同社のHPの中で次のようなメッセージを発信しています。

『「どうせ無理」という言葉は、人の可能性を奪います。興味を持たなくなり、やる前に諦め、考えなくなってしまいます。「だったらこうしてみたら？」という言葉は、人の可能性を広げます。やったことが無いことに挑戦し、あきらめず、より良くを求めるようになります。』と。

「学校からの教育改革」。決して簡単にできるものではありません。ただ、必要な改革を前にして「どうせ無理」と思えばそれ以上は前に進んでいくことはできません。本会会員155名の皆で知恵を出し合い、力を出し合って、「次の一歩」を踏み出していくために、「チーム群馬」として、一年間一緒に頑張っていきましょう。よろしく願いいたします。